

【助成事業:はまかぜプラザリニューアル記念 まちなか映画祭&春の生活応援セール】

ポイント

「はまかぜプラザ」で寄席やライブを開催し、コミュニティ活動で日本一の商店街を目指す

オバマ前米国大統領の就任時、一躍全国にその名を知られた福井県小浜市の駅前商店街。北陸新幹線開通の朗報もあるが、大型店の進出に加え地域の人口減少と店主の高齢化等により街の賑わいづくりが課題の中で、コミュニティ施設「はまかぜプラザ」を中心に、定期的なライブや寄席、映画祭などで集客を促進。マチアソビ人生ゲーム、いす1グランプリや毎朝のラジオ体操などユニークな企画を加えて“愉しく儲かる日本一の商店街”を目指している。

商店街情報

所在地:福井県小浜市酒井110番地
地域の人口:29,672人 11,921世帯
(小浜市 平成29年4月現在)

商店街の種類:地域型商店街

組合員数:67名

店舗数:60店舗(主な業種構成:飲・食料品、文具・雑貨、衣料品・和装小物、飲食・サービスなど)

TEL・FAX:0770-52-6259

URL:<https://hamakaze-st.net>



商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

福井県の南西部、JR小浜駅から若狭湾に向かって300mと500mの街区を有する地域型商店街。公募による愛称の「はまかぜ通り商店街」は、NHKの連続テレビ小説「ちりとてちん」の舞台になり、アメリカのオバマ前大統領の就任時等で話題となった小浜市の玄関口に位置する。小浜市のある若狭地方は、昔から海産物が豊富で朝廷にも食材を提供したことから“御食国(みけつくに)”と呼ばれ、とりわけ鯖を京都に運んだ若狭街道には「鯖街道」の別名がある。当時は港から街道に向かって店が立ち並んでいたが、大正になって国鉄小浜駅が開通したことにより現在のような駅前を中心とする商店街が形成された。

商店街組織は、昭和38年に任意組織から商店街振興組合へ法人化、高度化事業によりアーケードや共同駐車場の整備を進めてきた。さらに、平成18年には廃業した旅館を再整備し、ちりとてちん資料館もあるコミュニティ施設「はまかぜプラザ」を設置。ここを拠点にアマチュアバンドによるはまかぜライブや落語の寄席など様々なイベントを開催している。組合員もかつては物販やサービス業を中心に120名を超えていたが、鯖の漁獲高の減少による経済的影響と販売不振、さらに店主の高齢化等で閉鎖する店舗が増加し現在は67名となっている。また、近年は物販店の代わりに夜間営業の飲食店が入ることが多く、昼間の商店街はやや活気をそがれる状況となっている。こうした課題等を解決するため、工夫を凝らして毎月何らかのイベントを開催して集客を図るほか、毎朝10時からアーケードの下でラジオ体操を行うなど、活性化への努力を傾注している。



はまかぜプラザの全景



落語の様子



助成事業の概要とその成果

当商店街の主な顧客は近隣の住民と観光客であり、自らもバンドをやっていた木下前理事長の時からライブや寄席など様々な集客イベントを実施してきた。助成事業では、より多くの人に商店街に足を運んでもらいたいと考え、大人から子供まで幅広い世代から商店街に想いを寄せてもらえるよう事業を企画した。

＜平成25年度事業：「もしりじ」もしもアナタが商店街の理事長だったら＞

①もしりじ

“もしもあなたが商店街の理事長だったら”とのテーマで子供を対象に「あったらいいな！こんな店、こんな街」を、大人向けには「こどもに残したい街」をテーマに図画・作文を募集した。デパートやカフェ、遊技場や映画館等の娯楽施設等200以上の作品が寄せられ、商店街で展示会を開催。また当日は、商店街を歩行者天国にして各所にステージを設け、よさこいやHIPHOP、プラスバンドなどを実演、地域団体も協力して盛大なイベントとなった。一方組合員は応募で選ばれた子供店長を筆頭に「100縁商店街」を同時に開催。さらに、寄せられた要望は今後の改善点として商店街の検討課題とした。

②夜の市

小浜市の夏祭り「若狭マリニピア」の初日に合わせて、夜の市を開催。歩行者天国にした商店街に綿菓子やかき氷といった屋台が並び、多くの地域団体の協力を得て多彩な催しを繰り広げた。昼の部は、輪投げ大会などのゲームコーナーや子供工作教室を設け、中学生のプラスバンド、高校生のダンスや軽音楽、書道ガールズがパフォーマンスを披露。夜の部は、キャラクターショーやHIPHOP、フラダンス、ご当地ソングの「小浜音頭」「七福神大笑い音頭」で参加者も踊りに参加するなど幅広い世代が来場、10,000人を超える人出で賑わった。

＜平成26年度実施事業：はまかぜプラザリニューアル記念 まちなか映画祭&春の生活応援セール＞

①まちなか映画祭

平成18年に、街区内で廃業した旅館を改修して設置したコミュニティ施設「はまかぜプラザ」。25年度事業でバリアフリー化等のリニューアルを完成、これを記念して「まちなか映画祭」を開催した。これは、前年度の「もしりじ」事業で、映画館まで1時間かかるなどで住民から要望の多かったもの、「アナと雪の女王」など子供や高齢者に人気の作品を4日間連続で上映した。

②はまかぜいいとこ商店街セール

秋の行楽シーズン、観光客の来店も視野に入れ、全店舗の参加による地域特産品の紹介・販売を含めた商店街セールを実施。期間中に1,000円以上のお買い上げにつき「富じ」を1枚贈呈。景品には、「越前ガニ」「若狭牛」など地域特産品や「お買い物券」を用意。消費者からは大変好評で約8,000件の応募があった。

③はまかぜ通りまち歩きマップ

商店街と各店舗をよく知ってもらうため、「はまかぜ通り商店街まち歩きマップ」を作成した。作成に当たっては、女性組合員の目線で街を見てもらい、その意見を多く取り入れて組合員58店舗の営業時間や休日等の店舗情報や周辺の観光スポット、商店街のイベント情報等を七福神のイラスト付きで紹介。利用者からは、「丈夫で見やすい」「持ち運びに便利」と好評で、観光案内所や道の駅にも設置して利用者の利便を図っている。

＜助成事業による成果等＞

当商店街は従来から積極的なイベント等の事業を実施しており、助成事業では蓄積されたノウハウを活用して幅広い世代に対応する事業を実施。地域住民と商店街の関りを一層深めることができた。特に青年部や女性組合員が積極的に取り組み、はまかぜプラザを活用したイベントでは普段あまり商店街に縁のない若者を集めることができたほか、様々な地域団体との交流が進み、身近な商店街として認識されたことも大きな副次効果であった。



上段
もしりじポスター

下段
夜の市 踊りパレード



上段
まちなか映画祭チラシ

下段
はまかぜ通りまち歩きマップ



助成事業以降の商店街活動

当商店街では、助成事業を実施する前からライブ・コンサートや寄席等を積極的に実施しており、現在も「週末イベント」や恒例のイベントを中心に積極的に挑戦している。こうした背景には、地元の店に少しでも利用してもらいたい、そのために商店街のHPにも掲載している理念を実現していこうという積極的な取り組み姿勢があるからに他ならない。

＜こんな商店街をめざします！：HPより＞
 ・わくわく・ドキドキ商品街を目指します！
 ・愉しくて儲かる商店街を目指します！
 ・"ありがとう"がこだまする商店街日本一を目指します！
 ・後を継ぎたいと思われるお店＆商店街づくりを目指します！

①「はまかぜプラザ」を活用したイベント等

はまかぜプラザを活用した様々なイベントを継続して実施している。毎月第1日曜にアマチュアバンドの「はまかぜライブ」、第2日曜には「はまかぜカードバトルチャンピオンシップ」の定期開催のほか、「はまかぜ寄席」や「はまかぜシアター」を実施しており、若者を含めた幅広い世代の集客に成功している。また、はまかぜプラザは、地域住民の集まりや休憩所などにも利用され、地域コミュニティの場となっている。



はまかぜライブの様子

②市民参加型イベント

【まちあそび人生ゲーム】

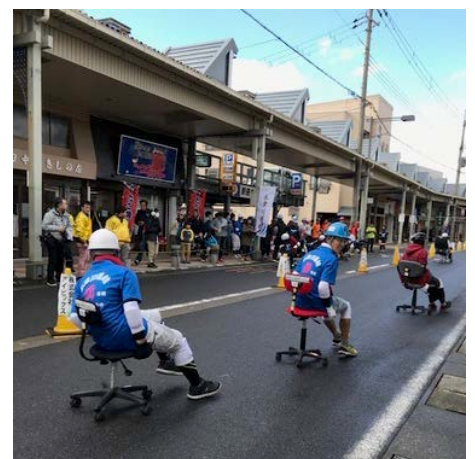
商店街の店舗をマス目に見立てた体験型のリアル「人生ゲーム」を実施。ルールは参加者が職業、初任給、給料を決定するカードを引き、仮想通貨を受け取りスタート。ルーレットを回して出た数字のマス目の店舗へ進み、店ごとに設けられたストーリーに従って仮想通貨のやりとりを楽しみながら商店街を1周、獲得通貨で勝敗が決まる。参加店は50店舗で、130チーム(333人)が参加。各店舗へは「立ち寄った参加者へ割引券やなんらかのおまけの配布」を依頼、次に繋げる努力をしている。また、鯖を焼いている魚屋を通過してゲームをするコースを設定し、子供達の社会科見学の要素も含めた。参加した店主からは、「普段、見かけない人が来店してくれた」「楽しかった」など好評で、集客や売上増に貢献したことから今後も継続していく。



まちあそび人生ゲームの様子

【いす-1グランプリ小浜大会】

事務用の椅子で商店街を駆け抜ける「いす-1グランプリ小浜大会」を実施。1チーム3名がキャスター付き事務椅子で街区に設けた1周200mの特設コースを2時間で何周回れるかを競うもの。当日は小雨が降るなか京都や鳥取など2府4県から16チームの50人がレースに参加、仲間や沿道の人達の応援をうけ懸命に事務椅子を走らせた。参加者は「予想以上にハード」「また挑戦したい」と笑顔でレースを振り返り、ライブ演奏や屋台も楽しんだ。



いす-1グランプリ小浜大会の様子

③商売繁盛による笑店街

当商店街の理念の一つでもある「愉しくて儲かる商店街」を目指して、多数のユニークな取り組みを行っている。毎朝10時に店主達は各々の軒先で「ラジオ体操」を実施。高齢化する店主たちの健康維持を目的に理事長発案で始めたが、そこに居合わせた来街者も一緒になって体操を始め、店主等との交流を深める機会になっている。また各店頭にはその店舗の特徴を活かした小断りポスターを掲示、『あそこの川魚料理店自転車操業だって。』『大丈夫です、鯉でますから。』などの内容で来街者を楽しませている。その他商売繁盛を願う縁起のいい七福神にあやかった当商店街発祥の「七福神大笑い音頭」に踊りを付け、商店街関係者が七福神に扮して各種イベントに参加、この「七福神大笑い音頭」をCD化、全国の商店街に向けて七福神衣装の貸し出しも行っている。



自治体による活性化支援等

小浜市

現在の小浜市は、人口が3万人を割り込み、消費の低迷が課題となっている。このため市では、商業振興策として、街の駅を中心に伝統的な建築を保存し、これらを回遊する「街歩き観光事業」に力を入れており、商店街も重要な要素の一つとなっている。小浜市には、現在二つの商店街があり、駅通り商店街は積極的な活動を実施しており、市も高く評価している。

一方、平成35年には北陸新幹線が小浜を経由して開通する予定で、商業環境の大きな変化が想定され、商店街等もこれへの対応が必須である。

また、市内商業の実態把握のための、商店街に関する消費動向調査を実施した。その結果によると「気軽に行ける商店街づくり」や「鯖、寺、箸の地域資源をアピールして欲しい」など市民の商店街への期待が大きいことが明確になり、若者を取り込むイベントや観光スポットを有効活用した活動を支援して地域の活性化を図りたいと考えている。主な支援策は以下のとおり。

①まちなか魅力発見・創出事業費補助

商店街が主催する若者等をターゲットにした新規性のあるイベント、スタンプラリー、マップ作成等の街の魅力発見事業に対し事業費の一部を助成。

②企業・チャレンジ支援

市内で創業や開店を希望する事業者に対し、20万円を上限に建物取得費や店舗賃料等の対象経費の実際に要した経費の1/2を助成、また対象者がU・ターン、40歳未満の女性、空き店舗を活用し3人以上を雇用などの属性に応じてそれぞれ限度額が増額される。

③その他

店主等を対象にしたSNS講座やクレジットカード・電子マネー決済端末の導入支援、地域の高校と連携した「カフェはまば」の開店等、若者や観光客に対応するための支援策を講じている。

商店街の今後の戦略

お客様目線で街の機能をアップ

商店街が、百貨店や大手ナショナルチェーン店には価格・物量では到底勝負は出来ないの、「かゆい所に手が届く」「お客様の小さな悩みを解決する」など、お客様の目線に立って、地元の商店街だからこそそのサービスを心がけていきたい。商店街の意義である他業種の集合体の強みを発揮し、様々な商品・サービスの提供を目指している。

しかし、一方で、店主の高齢化が最大の課題となっている。青年部ですら中高年の域に達している状況で、問題解決のためには次世代の育成が急務であるが、現実には即効性のある対策は難しい。そこで、意識改革の一環として「商店主の家庭で晩御飯を食べるとき『儲からない』といったネガティブな発言はやめよう。」と子供たちが跡継ぎとなりやすい環境作りを努めている。高齢の店主についても、「億劫でも店の外で多様な人々と触れ合い商店街に興味を持ってもらおう」と店前でのラジオ体操や、仮装イベントなどへの参加を呼び掛けている。

また、対外的には若者の目を惹くゲームやライブイベントを積極的に実施し、一定の集客と売上増に繋げている。こうした取り組みが“愉しくて儲かる商店街”として多くの人々に認識され、それが「後を継ぎたいと思われる商店街」となるよう、今後も前向きにユーモアと新鮮な感覚を忘れず活性化事業に取り組んでいきたい。



～ 仕掛け人 ～

小浜駅通り商店街振興組合

理事長 岸野光恭



取材を通じて明らかになったこと

取材時に、イベントでも着用する赤い大黒天の衣装を着て現れた岸野理事長。ユーモアとサービス精神に溢れ、前理事長の時代から新しい事業に積極的に取り組む姿勢が活性化への基盤となっていることが窺える。特に、「もしりじ」等の事業で顧客の要望を捉え、商店街事業に積極的に反映させていく手法は他の商店街も大いに参考とすべき点である。また、コミュニティ施設「はまかぜプラザ」の存在も大きい。活性化事業を実施する場の設定に苦勞する街が多いが、協同の資産を非常に有効に活用しており、地域の高齢化が進む中で今後もその役割は一層重要性を増してくるものと思われる。地域密着型を目標に、いす-1グランプリや人生ゲーム等で“商店街は愉しんでもらう場所”を実践し、顧客目線でかつ儲かる街づくりを進めている。将来の新幹線開通時には観光客も増える中で、多くの人に新しい若狭地方の街を見せてくれるものと期待が高まる。